

Grok

- 研究によると、イベントは全体的に好評で、AI 関連のイノベーションに焦点を当てた点が注目され、約 15,000 人の来場者を集めたようです。
- 生成 AI ツールの展示が熱狂を生んだ一方で、一部の参加者からは AI 偏重が他の知財トピックを影薄くしたとの指摘もあり、意見が分かれている可能性があります。
- 証拠から、ネットワーキングと実践的な洞察がポジティブに評価されたものの、AI の誇大宣伝と実質的な議論のバランスが課題として挙げられています。

イベント概要

2025 年 9 月 10 日から 12 日まで、東京ビッグサイト西 3・4 ホールで開催された第 34 回知財情報フェア & コンファレンスは、特許・実用新案・意匠・商標を含む知的財産全般をカバーする国内最大規模の展示会でした。出展社数は過去最多の 158 社、来場者数は 15,207 名を記録し、盛況に終わりました。テーマは知財戦略に役立つシステムや情報の提供で、生成 AI の活用が目立つ内容でした。

参加者のフィードバックのハイライト

多くの参加者がソーシャルメディアやブログでポジティブな感想を共有しており、AI による特許調査の効率化や自動化のデモが特に好評でした。例えば、出展者からは「貴重な気づきを得た」との声が上がり、来場者との対話がビジネスチャンスにつながったと評価されています。しかし、一部では AI の過度な強調が他の知財領域を目立たなくしたとの意見もあり、全体のバランスを求める声が見られます。

潜在的な改善点

混雑による対応の不十分さや、AI 中心のトレンドが予測不能な未来を想起させる点が指摘されました。全体として成功したイベントですが、多様なトピックの充実が今後の課題となりそうです。

2025 年 9 月 10 日から 12 日まで東京ビッグサイト西 3・4 ホールで開催された第 34 回知財情報フェア & コンファレンス(以下、知財情報フェア 2025)は、知的財産(IP)分野の専門家、企業関係者、研究者を対象とした国内最大級のイベントとして、過去最多の 158 社が出展し、総来場者数 15,207 名を記録しました。このフェアは、特許・実用新案だけでなく意匠・商標を含む広範な知財情報をカバーし、研究開発から権利取得、事業化までの戦略に役立つツールや情報を一堂に集めたものです。主催は一般社団法人発明推進協会、一般財団法人日本特許情報機構、産経新聞社で、特許庁や日本弁理士会などの後援を受けています。

イベントの最大の特徴は、生成 AI の台頭による知財業務の変革に焦点を当てた点で、多くのブースが AI を活用した特許調査の効率化、自動化、分析の高度化をアピールしていました。来場者数は初日 3,754 名、2 日目 4,610 名、最終日 6,843 名と日を追うごとに増加し、フォーラム会場は初日から満席となる盛況ぶりでした。特許庁の河西長官が視察し、挨拶を行ったこともイベントの権威性を高めました。

参加者からのフィードバックをソーシャルメディアやブログ、評価レポートから分析すると、全体的にポジティブな評価が目立ちます。例えば、note.com の記事では「今年のフェアの主役は生成 AI」とされ、各社が AI 搭載ツールを競うように展示した点が興奮を呼んだと記述されています。出展者側からも、株式会社 ONIXION や PATWARE などの企業が X(旧 Twitter)で感謝の投稿をし、来場者との対話が「貴重な気づき」や「製品改善のヒント」になったと報告しています。また、イーパテントの野崎篤志氏は、生成 AI を使ったライブ特許分析のデモを note で公開し、終活サービスの分析レポート作成を例に AI の可能性を示しました。

一方で、批判的な意見も散見されます。iptops.com のブログでは「AI の熱狂と IP ランドスケープの静寂」と題し、AI 関連の展示が過熱する中、他の知財トピック(例: IP ランドスケープ分析)が相対的に静かだった点を指摘。X の投稿でも、一部のユーザーが「AI 関連ががっかり」「ありきたりでつまらなかった」と述べ、専用データベース連携のエージェントツール以外に革新性を感じなかったとの声がありました。また、yorozuipsc.com の PDF 評価レポートでは、来場者が AI の多さに驚きつつ肯定的だが、「今年は AI だらけ」との感想が昨年から続くトレンドとして挙げられ、バランスの取れた議論の必要性を示唆しています。

セミナーやブースの詳細では、Patent Field の 4 エージェントツール構想が注目を集め、Notebook LM を使った特許情報分析の解説が好評でした。また、知財で稼ぐマインドセットのアップデートをテーマにした記事も登場し、日本企業の知財戦略の変革

を促す内容が反響を呼んでいます。混雑による対応不足を謝罪する出展者もあり、来場者の多さが成功の証である一方で運営の課題も浮き彫りになりました。

今後の影響として、フェアは知財分野の AI 統合を加速させる触媒となったようです。記事では「知財の未来は生成 AI の使い方で決まる」とされ、単なる採用ではなく組織内での戦略的活用が鍵になると指摘されています。次回は 2026 年 9 月 16 日から 18 日、東京ビッグサイト東ホールで開催予定です。

フィードバックの主要テーマをまとめたテーブルは以下の通りです：

テーマ	ポジティブな側面	指摘された課題/ 批判	代表的な引用/ソース
AI の支 配	生成 AI のデモが興 奮を呼び、効率化ツ ールが好評	過熱が他のトピック を影薄くし、ありき たりとの意見	「主役は生成 AI」；「がっかりだ った」[post:33]
ネットワ ーキング と展示	対面交流で気づきを 得、ビジネスチャンス 創出	混雑で対応不足	「貴重な財産となった」 [post:22]；「十分にご対応でき なかった」
全体満足 度	過去最大規模で盛 況、来場者 15,207 名	AI 偏重でバランス 欠如	「成功ぶり」；「IP ランドスケープ の静寂」
将来の示 唆	AI 活用が知財戦略を 変革	予測不能な変化へ の不安	「未来は AI の使い方で決ま る」；「マインドセットのアップデ ート」[post:18]

このフェアは、知財業界のトレンドを反映したものとして、AI の熱狂が業界の変革を象徴する一方で、多角的な議論の重要性を再認識させるイベントでした。参加者の多様な声から、バランスの取れた進化が求められていることがわかります。

Key Citations

- <https://note.com/tshioya/n/n693af7673e97> – AI の熱狂と IP ランドスケープの静寂についての記事。
- <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/8fd734b2c9a4d59aa9b7.pdf> – イベントの評価と来場者数に関する PDF。
- https://note.com/yutori_jd/n/n3a4330a01691 – 生成 AI の役割と未来の知財戦略についての考察。

- <https://yoroziupsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/c615a21fdac7910e6430.pdf> – AI 偏重の感想と全体評価。
- <https://pifc.jp/2025/> – 公式サイト概要と来場者データ。
- <https://iptops.com/blog/193333> – フェアの印象と AI vs. 他のトピックの分析。
- <https://www.patware.net/info/%25E3%2581%259D%25E3%2581%25AE%25E4%25BB%2596/pifc2025-2/> – 出展者の御礼と混雑に関する報告。
- [post:22] https://x.com/jitsumuka_K/status/1968298501982634016 – 出展者の感謝と気づきの投稿。
- [post:29] https://x.com/ONIXION_PR/status/1968130470715244570 – AI エージェントデモの報告。
- [post:33] <https://x.com/kz311/status/1968065463881175248> – AI 関連のがっかり感の投稿。
- [post:18] <https://x.com/innovatornet/status/1969203362550673507> – 知財で稼ぐマインドセットの記事リンク。
- [post:26] https://x.com/e_patent/status/1968205501751341348 – ライブ特許分析の公開。
- [post:21] <https://x.com/IPForce/status/1968457449746428229> – 来場者数と現場レポート。

20 ✕ posts

10 web pages